

平成24年 第2回

教育委員会定例会会議録

平成24年2月14日（火）

港区教育委員会

港区教育委員会会議録

第2342号

平成24年第2回定例会

日 時 平成24年2月14日（火） 午後2時00分 開会

場 所 教育委員会室

「出席委員」	委 員 長	半 田 吉 恵
	委員長職務代理者	澤 孝一郎
	委 員	綱 川 智 久
	委 員	小 島 洋 祐
	教 育 長	高 橋 良 祐

「説明のため出席した事務局職員」	次 長	小柳津 明
	庶務課長	伊藤 康博
	教育政策担当課長	山本 隆司
	学校施設計画担当課長	大久保 光正
	生涯学習推進課長	大竹 悦子
	国体推進担当課長	大竹 悦子
	(生涯学習推進課長兼務)	
	図書・文化財課長	沼倉 賢司
	指導室長	平田 英司

「書記」	庶務課庶務係長	柏 正彦
	庶務課庶務係	遠藤 由香里

「議題等」

日程第1 会議録の承認

第2326号 第11回臨時会、同秘密会（平成23年5月23日開催）

第2327号 第6回定例会、同秘密会（平成23年6月14日開催）

第2328号 第16回定例会、同秘密会（平成23年6月28日開催）

日程第2 審議事項

議案第3号 港区立幼稚園教育職員の人事について（秘密会）

日程第3 教育長報告事項

- 1 平成24年度第1回採用奨学生の決定について
- 2 平成23年度教育委員会表彰受賞者について
- 3 放課GO→あおやま・放課GO→こようの運営事業者について

- 4 赤坂小学校屋内プールの休場について
- 5 生涯学習推進課の1月事業実績について
- 6 生涯学習推進課の各事業別利用状況について
- 7 図書館・郷土資料館の1月行事实績について
- 8 図書館の1月分利用実績について
- 9 デジタル教科書の活用について
- 10 平成23年度卒業式「お祝いの言葉」について
- 11 平成24年度入学式「お祝いの言葉」について

「開 会」

○半田委員長 皆さん、こんにちは。

ただいまから、平成24年第2回港区教育委員会定例会を開会します。

本日は、佐藤学務課長から、まちづくり・子育て等対策特別委員会への出席のため当委員会は欠席のご連絡をいただいておりますので、ご承知おきください。

それでは、日程に入ります。

(午後2時00分)

「会議録署名委員」

○半田委員長 本日の署名委員は澤委員にお願いいたします。

## 第1 会議録の承認

第2326号 第11回臨時会、同秘密会（平成23年5月23日開催）

第2327号 第6回定例会、同秘密会（平成23年6月14日開催）

第2328号 第16回臨時会、同秘密会（平成23年6月28日開催）

○半田委員長 日程第1、会議録の承認に入ります。

第2326号、第11回臨時会、同秘密会、平成23年5月23日開催、第2327号、第6回定例会、同秘密会、平成23年6月14日開催、第2328号、第16回臨時会、同秘密会、平成23年6月28日開催の会議録につきましては、承認ということよろしいでしょうか。

(異議なし)

○半田委員長 それでは、承認することに決定いたしました。

## 第2 審議事項

### 1 議案第3号 港区立幼稚園教育職員の人事について（秘密会）

○半田委員長 日程第2、審議事項に入ります。

初めに、議案第3号、「港区立幼稚園教育職員の人事について」。この議題につきましては、人事案件であり、個人情報が含まれておりますので、秘密会に入りたいと思いますが、ご異議ございませんか。

(異議なし)

○半田委員長 それでは、これより秘密会に入ります。

資料番号を付してあります議案かがみを除いて、資料は審議終了後回収いたしますので、よろしくお願いいたします。

### 第3 教育長報告事項

#### 1 平成24年度第1回採用奨学生の決定について

○半田委員長 それでは、次に、日程第3、教育長報告事項に入ります。

まず初めに、「平成24年度第1回採用奨学生の決定について」。庶務課長、説明をお願いいたします。

○庶務課長 それでは、平成24年度第1回の奨学生につきまして、その選考結果についてご報告申し上げます。

資料ナンバー1をご覧ください。初めに、中ほど以降の「参考」の欄をご覧ください。今回の奨学生につきましては、昨年の11月7日から12月7日までの1カ月間にわたりまして募集を行いました。募集方法は、資料にございますとおり、区内の公立中学校及び高等学校、それから隣接区内の公立校の生徒につきましては、学校を通じまして募集案内、あるいは書類配布、応募受け付けを行ってございます。その他の学生につきましては、「広報みなと」「みなと教育ネット」等、区の広報媒体を使いまして広く募集をしてございます。

応募者について事務局で内容等を精査させていただき、去る1月18日に開催されました奨学資金運営協議会にお諮りし、そこでご審議いただいた上で採用候補生として決定したものでございます。

なお、今回、大学等の審査に当たりまして、2人が、親の収入が基準よりオーバーするというところで、規定どおりですと候補者とはなり得ないということでしたが、運営協議会にお諮りし、ご意見をいただいたところ、両名とも候補生とするに足りる事情があるというご判断をいただきましたので、このお2人も最終的には候補生としてございます。

その結果でございますが、資料の上段の表をご覧ください。一番右側になります。平成24年度第1回は、高校等につきまして応募者が27名ございまして、判定A、要するに事務的な段階では基準内、候補者足り得ると判断した者が27名、運営協議会の審議をいただいた後採用候補者と決定した者が27名ございます。大学等につきましては、応募者17名、うち、先程ご説明しましたとおり、2名の方が事務的には候補者とできないという判断でございましたが、運営協議会のご判断をいただきまして、この2名とも候補者とし、結果的に応募者全員17名が候補者となってございます。説明は以上でございます。

○半田委員長 ただいまの説明に対してご質問はございますでしょうか。

○小島委員 大学については、どんな大学に進学予定なのでしょうか。

○庶務課長 主な大学で申し上げますと、やはり私立大学がとうございます。例えば明治大学、あるいは学習院、成蹊大学、慶應大学、創価大学、関東学院大学等がございます。また、公立大学といたしましては、東京大学、東北大学、首都大学東京。ただし、これは応募時点で志望されている学校ですので、確実に合格したということではございません。最終的には合格の確認をした上で奨学生として決定するということになります。

○綱川委員 これは協議会で決定して、教育委員会は報告ですよね。すでにもう奨学生は決定して

いるわけですが、この22年、23年、24年と、みんな判定Bの方がいらっしゃるよ  
ね。例えば、判定基準というのはオープンになっているわけですよ。判定でひっかかるから遠慮  
しましょうという話でやっている方と、通ってしまうかなと出した方でBになっている方とらっ  
しゃると思うのです。判定基準があって、だめとわかっていながら出しているということと、一番  
下に書いてあります「制度の趣旨、家計状況、経済状況から協議の結果、採用候補者とするこ  
ととしました」と書いてあるのですけれども、この辺、基準があって、それをオーバーしているの  
という、毎年こういうふうになるのですけれども、どうなのでしょうね。

○**庶務課長** 実は、募集案内の際に、所得、家計の状況についてのおおよその目安を示してござ  
います。例えば、大学ですと、給与所得者の場合、約950万円以下の所得であれば候補者になり得  
ます。この件につきましては、1月18日に開催しました運営協議会の場でも、今綱川委員がおっ  
しゃったようなことと同様のご指摘をいただきまして、この基準を見て最初からあきらめる人が出  
てくるのはまずいだろうと。したがって、来年度以降の募集要項においては、その辺をもう少し考  
慮して表現の工夫等をしないとだめだというご指摘をいただいておりますので、事務局として今後  
はそのような形で対応してまいります。

○**教育長** 募集のところで読み取った中で、応募できると判断した人、できないとあきらめた人が  
出るということは、公平性に欠けるということがありますから、もっともなことだと思いますので、  
そこは運営協議会でも「変えましょう」という話になったのです。ただ、かなり複雑な計算で、家  
族がいたり、きょうだいがいたり、きょうだいどこに通っていたりとかいうような、1人ひと  
りの個々のケースに合わせなければ判定できないようなことなどで迷っているケースはどうぞ応募し  
てくださいというふうな案内をしているのだと思うのです。ですから、計算した結果、多少オーバ  
ーしてしまっている人もその候補者の中には出てくるということなのだと思うのです。ですから、  
その辺をより丁寧に行っていくということが大事なんでしょうね。

○**澤委員** それだけ困っているというあらわれでもある。簡単にあきらめてしまう人は、もらえたら  
もらおうかということかなと思います。奨学金の計算は結構複雑なので、兄弟姉妹がいたり、家  
計の状況など、そこまで細かくきっちりご本人に計算させて応募させるということはむしろ不可能  
で大変なことではないか。ただし、さっき教育長や綱川委員が言われたように、基準があつてなき  
がごとしという印象を与えてしまうのが一番まずいと思うのです。

○**庶務課長** 従来も、「事前にご相談いただければ、場合によっては対象となる場合もあるので、ぜ  
ひ応募してください」というご案内はしてございましたが、その旨を募集要項にももう少し明示的  
に示したほうがいいのかというご指摘をいただいておりますので、今後はそのような形で  
対応させていただきます。

○**半田委員長** 1月18日現在では出るということで決定しても、残念ながら大学に合格しなかつ  
た方に対しては一切発生しないわけですよ。例年そういうことというのはあるのでしょうか。

○**庶務課長** 先程もご説明しましたように、「候補者」という言葉を使わせていただいております。あ  
くまでこの段階では候補者です。奨学生として採用するには、必ず高校、大学どちらかの合格が必

要になります。それを確認させていただいた上で最終的に奨学生として決定します。これまでは、不合格で結果的に奨学生になれなかったというケースはほとんどございませんが、この資料の中に、22年度、23年度に辞退者がございます。記憶がちょっとあいまいですので確定的なことは言えませんが、22年度の2人のうち1人は、合格出来なかったのではないかと記憶しております。

○半田委員長 高校の方ですか。

○庶務課長 はい。全部ではございません。

○綱川委員 資料の表ですが、計算が合っていないです。23年度の第1回目の高校生、判定Aが18で、判定Bが1でしょう。22年を見ると、それを足し算して19になるのかなと思うのだけれども、これは足し算が何か違うのですか。今聞いてしまったから見てしまったのですけれども。

○庶務課長 失礼しました。確認をさせていただきます。

○半田委員長 それでは、この案件はよろしいでしょうか。

## 2 平成23年度教育委員会表彰受賞者について

○半田委員長 次に、「平成23年度教育委員会表彰受賞者について」。庶務課長、説明をお願いいたします。

○庶務課長 それでは、平成23年度港区教育委員会表彰についてご報告申し上げます。

資料ナンバー2をご覧ください。

港区教育委員会では、区立の幼稚園、小・中学校に在園（校）する幼児及び児童・生徒を対象として、他の幼児・児童・生徒の模範となるべき功績があった者を毎年度表彰してございます。平成23年度におきましては、各幼稚園、小・中学校の校長から、該当者たり得る方について推薦をいただき、事務局で内容等を精査した結果、後ほどご説明させていただきますが、21件の個人もしくは団体・チームについて表彰の対象とするにふさわしいという形で整理をさせていただきました。なお、学校から推薦がございましたのは23件でございましたが、基準等に照らして、残念ながら表彰の対象とするのは難しいと判断をさせていただいた案件が2件ございました。表彰者につきましては、資料の2枚目の裏面に名簿を掲載してございます。小学校で12名の児童、中学校につきましては、個人としては6名、団体・チームとして3組、合わせまして21件について表彰することに決定させていただきました。

なお、表彰式につきましては、本日、この教育委員会終了後を予定してございます。

表彰内容につきましては、個人につきましては、表彰状と、副賞として図書券5,000円、また団体につきましては、表彰状と、その表彰状を入れる額縁をお贈りしてございます。

資料の2枚目、別紙1は、この表彰基準を示したものでございます。

最後の名簿をご覧ください。先程若干ご説明いたしましたですが、今回の表彰で特徴的なことは、一つは、中学校の部の最後、20番目にございますが、青山中学校のお話会。これは、「40人」と書いてございますとおり、学校を挙げて取り組んでいるボランティア活動でございます。このお話会につきましては、過去にも受賞の履歴がございまして今回で3回目になります。教育委員会表彰以

外にも、この資料の一番右側に書かれているとおり、他の団体等の場においても高い評価を受けている非常に活動の活発なグループでございます。

また、最後にお示ししておりますお台場学園防災ジュニアチームにつきましては、昨年、東日本大震災の際の様々なご報告をさせていただく中で折に触れてご報告をさせていただきましたが、お台場学園の中学生を中心とするお台場学園の防災ジュニアチームが、3月11日当日、学校に避難された方、あるいは帰宅困難者に対して様々な形で支援をし、避難所の運営に多大な功績があったということでございます。3月11日から日の浅いうちに区長からも感謝状をいただき、また、今年になりまして、公益財団法人東京防災救急協会理事長賞をいただくなど、高い評価をいただいております。説明は以上でございます。

○半田委員長 ただいまの説明に対してご質問はございますでしょうか。

○澤委員 うちの小学生、中学生がいろいろなところで活躍しているというのはすごくうれしいことです。11番目の「ロボカップジュニアジャパン2011 全国プライマリー（14歳以下）リーグ」の二村君というのは、学校で何かやっているというより、個人的にそういうことに興味を持ってやっているのですか。

○庶務課長 表彰は、学校からの推薦となります。この「ロボカップジュニアジャパン2011」は、自作の自立型のロボットによる、サッカー、レスキュー、あるいはダンスの三つのジャンルで競うという内容になってございます。本人は、チーム「ゆかいなピエロ」という、全国大会ダンス部門プライマリー（14歳以下）リーグで、見事優勝を果たしたということでございます。さらに世界大会に進出したけれども、惜しくも優勝を逃したといった形になってございます。

○教育長 毎年、児童・生徒を表彰するこういう取り組みをしているわけですがけれども、毎回、子どもたちが自分の興味・関心に合わせて、スポーツであったり、作文、その他、ロボットも含めて、自分の思いをこういうものにしっかり表現して活躍してくれているというのは本当にうれしいことだと思います。これからも、もっともっと子どもが色々なことにチャレンジして、またそのチャレンジが認められるようなこういう表彰というものを充実させていきたいというふうに思います。

あわせて、今後の課題ですけれども、この資料を見てもわかりますように、表彰対象は区立の学校、幼稚園。つまり、学校単位、幼稚園単位、学校全体で何かをしたとか、そういうことに対する表彰と、幼児・児童及び生徒ということになっています。教員というものはここにはないですね。これから各学校がより活性化し、先生方自身がやる気を持って色々なことに取り組んでいく方向を考えると、そこに職員表彰というものがあっていいだろうと思いますので、これから教育委員会でも色々論議をしながら、そんな方向がいいのではないかと思います。

区は区で、港区の職員表彰がありますが、教員の場合は、東京都教育委員会の表彰はあるのですが、区の表彰はない。区立学校に勤務されている区の職員としての教員ですので、そういったものをこれからつくっていく方向も考えなければいけないのではないかと思います。いかがでしょうか。

○澤委員 大賛成です。



○小島委員 結構な話ですね。励みになるわけだから。ただ、どんな内容を表彰するのですか。

○教育長 教員ですから、例えば、研究活動で大変優秀な論文発表し、それが認められたというようなことでもよろしいでしょうし、児童・生徒の指導において素晴らしい授業を展開し、そこで子どもたちが活躍したとか、自分が教えている学校の子どもたちが英検のコンテストで大変優秀な成績を毎年上げているとか、色々なことが考えられるのではないかと思います。先生方の励みになって、そしてまた、さらに意欲を持って教育に取り組めるような内容がふさわしいのではないかと思います。

○小島委員 例えば、この1～2年で港区の先生が表彰された事例はあるのでしょうか。

○教育長 港区の教育を行って港区で表彰されたケースはここ何年かはないのですけれども、異動されてきた先生が、その前任のところでやっていた教育によって東京都教育委員会表彰というのを受けたケースはございます。また、今いる教員の中でも、以前にそういう東京都教育委員会表彰を受けた先生もいます。東京都は、一般教員は45歳で分けていて、44歳以下と45歳以上の一般の先生方、主幹も含めてですね。それと管理職、そして団体、そういう区分でやっているのです。港区の場合は、こういう児童・生徒のがあって学校というがあるので、今度は教員といったものをつくってあげればいいのかというふうに思います。

○綱川委員 中学校はクラブ活動とかそういうのをやっていて、これもクラブ活動の延長上でもらっているのか、ちょっとよく分からないところがあるのです。特色ある学校づくりの中でも、クラブ活動など、そういうのも奨励していけばいいと思いますので、この子はクラブ活動で表彰されましたというのがあって良いと思います。多分、これ、陸上と水泳がそうなのかなと想像はつくのですけれども。小学校のサッカーとかは、たしかクラブチームの方ですよ。何かそういうのもあったらいいのかなとちょっと思いました。意見です。ぜひクラブ活動も推進して行って、子どもたちがより集まる学校になればいいなと思っています。

○庶務課長 ただいま教育長、それから綱川委員からご指摘いただいた点を参考にしながら、表彰制度を改めて検討してまいりたいと思います。

○半田委員長 教育長が職員表彰もということでおっしゃって、それに加えてなのですが、青山中学校の読み聞かせに関しては、職員ではないのですが、アドバイザースタッフのご指導が素晴らしいということで、そんなことも子どもたちの結果に反映していると思うので、一緒に受賞の喜びが分かち合えたらいいなというふうに思いました。

他にございますでしょうか。

○綱川委員 今、教育長からご提案があった、そういうものを今ここでやりましょうというお話があったのですけれども、教育長、具現化するためにはどうしたらいいのですか。

○教育長 それは、皆さんの意見がそういうことであれば、委員長から事務局に言っていただければ、事務局は教育委員の意見を踏まえて検討します。

○半田委員長 皆様からのご意見がございましたので、ぜひよろしくお願います。

○庶務課長 公的にやろうとすると様々な課題があると思いますので、それを1個1個整理させて

いただきます。ただ、それ以外に、非公式な形でやることは考えられます。教員の功績に対しては、公式、非公式両面を含めまして、今後、検討し、実施させていただきたいと思います。

○半田委員長 それでは、この案件はよろしいでしょうか。

### 3 放課GO→あおやま・放課GO→こうよりの運営事業者について

○半田委員長 次に、「放課GO→あおやま・放課GO→こうよりの運営事業者について」。生涯学習推進課長、説明をお願いいたします。

○生涯学習推進課長 資料ナンバー3をご覧ください。放課GO→あおやま・放課GO→こうよりの運営事業者について決定いたしましたので、ご報告を申し上げます。

放課GO→の運営事業者につきましては、地域代表及び区等の事業の評価結果により、利用者の視点に立ち、おおむね5年間は毎年委託契約を更新することとしております。平成19年度に委託を開始し、今年度で5年を迎える放課GO→あおやま、放課GO→こうよりの運営事業者候補者を選定し、去る2月1日に開催された、港区の業者選定委員会において、以下のとおり決定いたしましたので、報告を申し上げます。

放課GO→あおやまにつきましては、運営事業者は、株式会社小学館集英社プロダクション、放課GO→こうよりににつきましては、株式会社パソナフォスターに決定いたしました。代表者、所在地については記載のとおりでございます。

選考経過です。

まず、募集期間は8月11日から10月12日まで募集いたしまして、募集事業者数は、あおやまで10、こうよりで11の事業者が応募いたしました。

第一次選考につきましては、申請書類と事業計画書類について、財務諸表分析、事業計画書に対する評価をもとに一次審査を行いまして、選定通過者として3事業者を決定し、第二次選考といたしましてプレゼンテーション及びヒアリングを行い、総合評価によって候補者を選定しております。

裏面をご覧ください。選定委員の名簿を参考につけております。放課GO→あおやま、放課GO→こうよりのともに、学識経験者2名、行政側からは教育委員会事務局次長、それぞれに設置をされております協議会から会長、学校関係者ということで校長先生、計5名の選定委員で選定しております。

今後の予定でございますが、運営事業者と区との間で運営準備を進めまして契約を締結し、4月から運営を始めていきたいと考えております。

報告については以上です。

○半田委員長 ただいまの説明に対してご質問はございますでしょうか。

○小島委員 あおやまとこうよりで、応募事業者が10と11なのですが、これは同じ事業者が結構いるのでしょうか。

○生涯学習推進課長 10の応募者が一緒です。一つだけ違うということ。今回、こうようの方が1事業者多いのですが、パソナフォスターが1事業者多かった。こうように応募を絞ってきたので

はないかと思っております。

○小島委員 あおやまもこうようも事業者が変わったのでしょうか。

○生涯学習推進課長 現在運営をしております事業者が、募集期間において指名停止の期間とちょうど一緒になっておりましたので応募できなかったということでございます。

○小島委員 事業者が変わる場合の事業の引き継ぎというのはどんなことをやるのですか。

○生涯学習推進課長 まだ契約が整っておりませんので、早くからは色々できないのですけれども、3月の中旬に保護者説明会で現事業者の説明会の後に新しい事業者を保護者に対して紹介いたします。

それから、3月の下旬から、旧事業者が運営をする中に新事業者が少しまじるような形で、契約前ではございますけれども、引き継ぎをさせていただきまして、4月からの事業がスムーズに動くようにということで引き継ぎをさせていただいております。

○綱川委員 契約ですからしょうがないことだと思うのですが、子どもが行っている事業、子どもが通っている事業なので、人と人とのつながりというのも結構必要になってくる。特段の事情や運営上の不都合があると思う。その継続性というのも必要な部分もあるので、その辺の配慮というのは何かあるのでしょうか。

○生涯学習推進課長 継続性の面で言うと、最初にご説明いたしましたように、1回プレゼンテーションをやって事業者を選定してからは、今後5年間、その事業者に特段の不都合がなければ継続をさせていただくという形をとっております。

また、新たに変わったところは、この何年間の中で何回かございますけれども、区内での実績のあるようなところが多いので、そういう意味ではスムーズに引き継ぎができていますと思います。

また、實際上そうなったものと思います。前の事業者からスタッフを、別の交渉になるのかもしれませんが、引き継ぐというような事例もございました。

○綱川委員 先程の話は、たまたまというか、指名停止期間中だったということで、そういうのは結構大変だなと思ってしまったのですね。あおやまも同じ業者だったのですか。

○生涯学習推進課長 あおやまも、こうようも、ともに同じ事業者が運営しておりました。

○綱川委員 分かりました。

○半田委員長 では、この案件はよろしいでしょうか。

#### 4 赤坂小学校屋内プールの休場について

○半田委員長 次に、「赤坂小学校屋内プールの休場について」。生涯学習推進課長、説明をお願いいたします。

○生涯学習推進課長 資料ナンバー4をご覧ください。赤坂小学校屋内プールの休場についてご説明申し上げます。

来る2月16日から4月1日まで、赤坂小学校屋内プールを休場いたします。休場理由につきま

しては、東日本大震災の後、プールの側溝に大きくひびが入っていましたが、応急処置を行いました。赤坂小学校屋内プールを開放してございました。ただ、本格的な補修工事が必要でございますので、今回、補修工事の日程が決まりましたので、この日程で休場をさせていただきたいと思っております。利用者への周知方法については、記載のとおりでございます。よろしくお願いたします。

○半田委員長 ただいまの説明に対してご質問はございますでしょうか。

○澤委員 かなり大規模な補修ということで、この期間はやむを得ないかなとは思いますが、予算的にはどのくらいの工事になるのですか。

○生涯学習推進課長 床のタイルの張りかえ、プール側溝改修、排煙オペレーター更新の3点が工事の内容でございます。契約額は、603万7,500円というふうに聞いております。

○小島委員 東日本大震災のときに、赤坂小学校のプールだけそういうひびが入ったというのはどうしてなのでしょう。ほかにもプールやいろいろな施設があるのですけれども、赤坂小のプールは何でこういうひびが入ったのですか。

○生涯学習推進課長 他のプールでも補修しなければいけないような部分はありました。

○小島委員 これは、もっと大きな被害になる可能性とか、子どもたちがけがをすとか、まかり間違えば人身事故になるような可能性もあったのですか。

○生涯学習推進課長 赤坂小学校は、屋内プールで一番最初に開いた古い屋内プールだと思います。コンクリートの部分で亀裂がぎーっと入って入りましたので、水漏れがないようにということで穴埋めだけはしっかりさせていただきましたが、側溝の向こう側とこっち側で段差ができてしまいました。ふたをしたときにガタガタするので、とりあえず小学校のプール指導に間に合うよう、触った時にけがをしないように側溝のふたをビスで全部留めました。ただ、このままでは中の掃除ができませんので、今回、全面的にその段差を解消し、プールの底のタイルにひびが入っているのを水を抜いて修理し、そういった根本的な改修をします。

○小島委員 他の小学校、中学校のプールなども点検はしたのでしょうか。

○生涯学習推進課長 はい。3.11の後、全て点検をさせていただいております。

○半田委員長 この案件はよろしいでしょうか。

## 5 生涯学習推進課の1月事業実績について

○半田委員長 次に、「生涯学習推進課の1月事業実績について」。生涯学習推進課長、説明をお願いいたします。

○生涯学習推進課長 資料ナンバー5をご覧ください。「生涯学習推進課の1月事業実績について」です。

いつもと若干違うところは、青山・東町タグラグビー教室というのを8日に一緒に行っております。青山のタグラグビー教室は第1日曜日、東町のタグラグビー教室は第2日曜日というふうにしてはいるのですが、第1日曜日が元旦に当たりましたので、8日に青山小学校で合同でタグラグビー教室を実施したと報告を受けています。それぞれの参加者が交流できて、いい教室になったと聞い

ております。

○半田委員長 ただいまの説明に対してご質問はございますでしょうか。それでは、この案件はよろしいでしょうか。

## 6 生涯学習推進課の各事業別利用状況について

○半田委員長 次に、「生涯学習推進課の各事業別利用状況について」。生涯学習推進課長、説明をお願いいたします。

○生涯学習推進課長 資料ナンバー6でございます。

「放課後児童育成事業 平成23年度参加児童数一覧」の一番下の「放課後児童育成事業及び放課後児童健全育成事業 合計」というところに、「H23 全15校 登録児童数計」で、23年度の計が11万4,991人で昨年に比べてかなり増えております。今回の教育振興プランと基本計画にも放課GO→の拡大と掲載させていただいておりますが、平成24年度中に赤羽小学校と白金小学校に放課GO→を拡大する予定でございます。そうすると、15校に2校を加えまして17校で放課GO→が設置できるようになります。港南小学校につきましては、本当に近くに中高生プラザの学童クラブがありますので放課GO→の実施は考えておりませんが、残り高輪台小学校1校になりますので、今後ここをどんなふうに展開していくのか、課題として所管としてはとらえているところでございます。

○半田委員長 ただいまの説明に対してご質問はございますでしょうか。よろしいでしょうか。

## 7 図書館・郷土資料館の1月行事实績について

○半田委員長 次に、「図書館・郷土資料館の1月行事实績について」。図書・文化財課長、説明をお願いいたします。

○図書・文化財課長 それでは、図書館の行事实績についてご説明させていただきます。

資料ナンバー7の「映画会」の中ほどのところでございますけれども、今年度、高輪分室で映画会をやったのですが、残念ながら参加者がゼロという結果になっております。通常ですと、「広報みなど」、図書館ホームページ、館内でのポスター・チラシ等の掲示というような形で周知をしているのですが、今回、「広報みなど」の掲載が、原稿の提出が間に合いませんので、結果的に、館内掲示とホームページのみの周知という形になってございます。このあたり、周知方法も含めまして、今後検討していきたいと考えております。

ちなみに分室の方の2月の映画会なのですが、こちらはもう既に実施しておりまして、約50名ほどの参加をいただいているところでございます。

それから、1枚おめくりいただきまして、3ページでございます。変わったところで申し上げますと、「その他」のところでございますけれども、下から2番目、「ウインターコンサート」となっております。三田で56名の参加となっております。中身につきましては、三田の方の地下の

視聴覚ホールでジャズの生演奏を聞いていただくような事業を実施しました。昨年も実施して非常に好評だったのですけれども、また、アンケートにおきましても非常に希望が多かったということもございまして、昨年とちょっと編成を変えて、今回はギターを中心に、ウッドベース、ビブラフォン、パーカッションのユニットで、曲目については比較的ポピュラーなものを中心にお聞きいただきました。今回のアンケートにつきましても、非常に好評をいただいているところでございます。

説明の方は以上でございます。

○半田委員長 ただいまの説明に対してご質問はございますでしょうか。

○澤委員 今課長が説明してくれた「その他」の中の一番下の高輪分室の「プレカレッジLit『金融のひみつ入門』」は、全く新しい企画ですか。

○図書・文化財課長 こちらにつきましては、高輪分室での事業でございますけれども、高輪分室が子ども中高生プラザの中にあるということで、乳児のご利用は多いのですけれども、なるべく中高生とか、年齢の高目の方にもご利用いただきたいということがありました。中身は、プレカレッジということで基本的には高校生向けなのですけれども、いろいろなテーマをその都度決めまして、今回は「金融」ということなので、実際に金融機関にお勤めの方に生のお話を色々いただいて、話を聞くだけではなくて、参加者と直接やりとりをして、将来進むべき道を考える参考にしていただくという企画です。

○澤委員 高校生が色々、将来の自分の進路を決めたりなんかするのに参考に出来るということですね。

○図書・文化財課長 そういったところにも役に立てていただきたいということでやっているものでございます。

○澤委員 去年、赤坂で成人向けのビジネスの関連の講座がありましたよね。それと似たようなものかと思ったのですけれども、そうではなくて、むしろ高校生が対象ということですね。

○半田委員長 他にございますでしょうか。それでは、この案件はよろしいでしょうか。

## 8 図書館の1月分利用実績について

○半田委員長 次に、「図書館の1月分利用実績について」。図書・文化財課長、説明をお願いいたします。

○図書・文化財課長 それでは、図書館の1月分利用実績でございます。資料ナンバー8でございます。

例年と比較しまして、実績としてそれほど大きく変わっているところはございません。下から二つ目の高輪分室でございますけれども、他館に比べて、資料数もまだ十分に整っておりません状況ですので、貸し出し数等につきましてはこれからというような数字になっております。例えば図書の貸し出し数につきましては、オープンした昨年12月が約2,400件程度でしたので、数字としては徐々に伸びてきているかなというところで、今後も様々な機会にPRして活用の方を増やしていきたいというふうに考えてございます。

○半田委員長 ただいまの説明に対してご質問はございますでしょうか。それでは、この案件はよろしいでしょうか。

## 9 デジタル教科書の活用について

○半田委員長 次に、「デジタル教科書の活用について」。指導室長、説明をお願いいたします。

○指導室長 参考資料ということで、こちらのカラー刷りの資料を配布させていただいております。こちらは、先週の金曜日に記者発表がございまして、そのときに使用した資料でございます。今日、実際のものも用意してございますので、操作を見ていただこうと考えているところでございます。特に今回、この記者発表を含めまして、ここがポイントというところが真ん中にあると思っておりますけれども、どこが新しいのですかということで、23区初の取り組みとしてということで、全ての区立の小学校19校に、国語、社会、地図、算数、理科の5種類のデジタル教科書を本格導入する。つまり、こうやってまとめて一律に本格的に導入する区は23区の中にはないということでございます。

中学校につきましては、2校をモデル校に指定しまして先行導入して、小学校とちょっと違う部分もございますので、教科担任制の中でどうやって使っていくかということを検証した上で広めていきたいというふうに考えているところでございます。

実際、こちらに用意してございますので、これを操作しながらご説明いたします。

記者の方々からも質問があったのですが、これ自体はいわゆる電子黒板というもので、いわゆる50インチ型のテレビにこういった黒板機能をつけたものでございます。これが「電子黒板」と言われるもので、「デジタル教科書」というのは、これの中にソフトを入れてございます。5教科入れてございますので、指導主事から、実際に授業で先生がどうやって使うかということを実演させていただきます。

○指導主事 例えば、漢字の書き順は普通に「1、2、3」と書いて練習するのもあるのですが、勉強した後に「7画目はどこですか」の問いに、例えば子どもが「ここかな」と答えたとします。そうすると、採点モードというのがありまして、「1、2、3、4、5、6、7、正解だね」という使い方もできます。

○指導室長 これは小学校6年生で出てくる漢字ですが、通常ですと、黒板に書いてやるのですけれども、こうやって視覚的に、しかも動画で見せられるので、子どもも集中して分かりやすい。今、説明にあったように、教師も説明しながら、またはこの機能を使って授業ができるということでございます。

では、社会科です。これも6年生の社会科で、歴史の学習で、奈良時代。

○指導主事 例えばこのような街の様子があって、ちょっと大きく見せたいという場合、ここに対しての動画というのがあるので、ちょっと見ていただきたいと思っております。

(操作)

○指導主事 このように短い動画なのですが、だらだら見せるのではなくて、ポイントを絞ること

で、児童がより分かりやすいというような特徴があります。

○指導室長 もし仮にこれを教員が自分で用意してやろうとすると、ものすごくエネルギーを使うのです。教材の準備だけでたいへん時間がかかるのですけれども、こうやってポイント、ポイントに入っていますので、どこに何が入っているかわかれば、誰でも操作しながら説明できるということで、非常に便利であるし、子どもも理解できるということになります。

○澤委員 確かに、室長が言われるように、何年に平城京遷都などと言っても、言葉だけではなかなかイメージがわかりませんが、子どもたちもこうやって画像を見せられるとイメージがわかりますね。

○指導主事 これは理科ですが、このように教科書と同じようなものがありまして、例えば拡大する場合には「注目しなさい」と言いながらこのように拡大することができます。

○教育長 それは文字か何か書けるのですか。

○指導主事 はい、書けます。この部分が削られているとか大事なところとか。

○指導室長 子どもも、画面で操作しながら発表できるものですから、学習形態としても非常に広がるし、分かりやすい。

○教育長 もっと大きくできるのですか。

○指導主事 これ以上はできないです。

○澤委員 ちょっと小さいような感じがしないでもない。この間、本村でやっていた、映写機能みたいなものも電子黒板ですか。

○指導主事 はい、また別の電子黒板です。

○小島委員 後ろの子は見えますか。

○指導主事 まだ大きく映らないというところもあるのです。ただ、問題を解かせるようなときに、全部にここだけに注目させて、そこで、この部分は削られているのではないかと、そういったことを話し合いながらできる。

○教育長 あそこに出ている画面は、教科書にありますので。だから、子どもたちは教科書を見ながら確認することができます。

○小島委員 教科書を見ながらね。

○指導主事 はい。同じものを使っていることで、どこを見ているかわからない子どもなどにも、ここを注目すればわかるのだなというような意識はさせられるので、とてもいいと思います。

○綱川委員 今、NTTが鹿児島でタブレットを10校ぐらいやっていると。今度、購入する教科書というのは、将来タブレットも連動できるのですか。

○指導室長 タブレット型、いわゆる子どもが持つものですね。タブレット型というのは、実は機械があれば飛ばせるのです。例えば〇〇さんのタブレットに書いてあるものを見ようとする、ぱっと映るのですけれども、それはこれだけのシステムではちょっとまだできません。

○綱川委員 タブレットを買ったらできるというわけではないのですね。

○指導室長 タブレットを映すためのソフトの、機械が必要になります。



○教育長 青山小でやります。

○指導室長 仕組みはもうできているので、使い勝手の問題はあると思います。

○澤委員 道具が面白いということではなくて、子どもたちが興味を持って理科とか算数に取り組んでもらう、そういう効果が一番大事ですね。自分でも考えてみようとか、そういういいきっかけをつくってくれるような活用の仕方ができるとおもしろいだろうと思います。さっきの歴史などは確かに効果があり、「平城京」などと言われたら、子どもたちはビルか何かを思い浮かべてしまうかもしれませんね。

○綱川委員 先生方が授業を見に行くと、磁石のついたぺったんこみたいなものでいろいろ教材をつくっていらっしゃる。それがもうこの中に入っているのですね。算数のときなどはそういう原稿を送っていますよね。

○教育長 これなんか見るともっと大きくても良いのではありませんか。

○指導主事 実はパソコンがそこに置いてあるのですけれども、パソコンの操作で少し大きくしています。

○教育長 これ、パソコンがないのか。

○指導主事 はい、そうなのです。これは教育センターのものなので、いっぱい入れられるようにサーバーとキーボードしかないのですが、学校はパソコンがついていますので、パソコンを介してもう準備をしておいて、さっと出すような形をとることができます。

○綱川委員 今、先生が教材を色々つくり変えたりして、時間を相当とられているのではないですか。これを入れると、そういうのが減ってくるとか、そういう状態なのですか。

○指導主事 そうです。

○澤委員 教材をつくることができればいいですね。

○指導主事 これも使って、これを使おうというふうな形にさせていただくといいかないと。

○教育長 これを活用する授業をつくらなければいけない。「これが一つの教材ですよ」と言っても、自分がつくったわけではなくて、これを活用することでようやく自分がつくったという話になるのですね。ただ、これを全て自作しようと思ったら大変なことになってしまっていて、とてもではないけれどもできないということです。

○澤委員 綱川委員が言われたように、もうちょっと時間の節約ができたならもっといい授業ができるのだということで、これが活用されるのはいいことだと思います。ただ、人間ってすぐ機械に頼りすぎてしまうから、あとは、そういうことは機械でいいというようなことになってしまうと、むしろ逆効果みたいなことが起きる危険性もあります。

○指導室長 当然、こうした機器を使用してどう指導するかが大切です。多分、分からない子が分かるようになると思うのです。今まで分からないなと思っているうちに授業がどんどん進んでしまっているという子が、これを視覚的にとらえることによって分かるようになると思うのです。あと、授業の効率が上がると思います。例えば復習の時間に使えるとか、色々な場面が想定できます。授業改善の余地はあると思います。青山小学校でやっておりますので、ぜひ発表会で案をご覧いただ

けたらと思います。

○綱川委員　すると、それは、パソコンがついていれば、パワーポイントと併用して画面を切りかえながらやるとかいうことはできるわけですか。

○指導主事　切りかえることはできます。

○半田委員長　動画は教科書会社がつくってくれるのですか。

○指導主事　そうです。

○半田委員長　これからの教科書採択は、動画の中身とかも関係してくるのでしょうか。

○教育長　それはこれから重要なポイントです。つまり、「デジタル教科書がまだありません」という教科書会社もあるわけです。つくっていませんと。それは、これにいくら入れても使えないということになりますから、それはそういう判定になりますね。中身の問題は、またそれはそれで検討しなければならないのですけれども、そういうことはこれから重要なポイントになります。

○半田委員長　この案件はよろしいでしょうか。

#### 10 平成23年度卒業式「お祝いの言葉」について

○半田委員長　次に、「平成23年度卒業式『お祝いの言葉』について」。指導室長、説明をお願いいたします。

○指導室長　前回の教育委員会のときに皆様からご指摘いただいた点を直しまして、再度提案させていただきます。

それでは、幼稚園の修了式からまた読み上げさせていただきたいと思います。

#### お祝いの言葉

皆さん、幼稚園の修了、おめでとうございます。

今、〇〇園長先生から、名前を呼ばれて、修了証書を受け取る皆さん1人ひとりの姿はとても立派でした。園長先生のお話もお顔を見てきちんと聞くことができ、幼稚園で今まで生活したことで、皆さんがしっかりしたお兄さんお姉さんに成長したことが伝わってきました。

皆さんは、毎朝「おはようございます」と元気なあいさつをして幼稚園に通いました。毎日の生活では、遊びに使った道具の片付けや当番のお仕事など、自分のことは自分でできるようになりました。また、年下のお友達のお世話をすることもできましたね。そして、お友達と仲良く元気に遊んで、幼稚園で楽しく過ごすことができたと思います。その他にも、運動会で力いっぱい走ったり、お友達と一緒に人形劇を観て楽しんだりして、忘れられない思い出をつくりましたね。これまで、みんなで力を合わせてきたので、〇〇幼稚園はますます明るく楽しい幼稚園になったと思います。

4月から皆さんは小学校1年生です。わくわくドキドキするような楽しいことが皆さんを待っていますよ。小学校では、国語や算数などいろいろな授業があります。広い校庭で体育も行います。お昼にはおいしい給食を食べます。教室の勉強では自分から手を挙げて発表したり、休み時

間や体育の時間には体をたくさん動かしたりして、たくましく育ってください。元気いっぱいの1年生になってくださいね。

さて、保護者の皆様、本日はお子様の幼稚園修了、誠にありがとうございます。ご家庭で愛情を注いで育ててこられたお子様の晴れの姿に、胸を熱くされたことと思います。

また、子どもたちの心豊かで健やかな成長は、ご家庭の愛情はもちろんのこと、地域の方々、関係の皆様のご理解とご支援、ご協力のおかげです。心からお礼申し上げます。

結びに、本日まで園児を教え導いてくださいました、〇〇園長先生をはじめ、教職員の皆様に深く感謝申し上げ、お祝いの言葉といたします。

平成24年3月21日

港区長 武井雅昭  
港区教育委員会

以上であります。

○小島委員 これではよろしいのではないかと思います。

○半田委員長 よろしいでしょうか。では、次、お願いします。

○指導室長 それでは、小学校卒業式。

#### お祝いの言葉

卒業生の皆さん、本日ここに小学校6年間の全課程を修了され、晴れて卒業のときを迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。

ただいま、皆さんは校長先生から1人1人、卒業証書を受け取りました。皆さんの凛々しい表情は、卒業の日を迎えた喜びと、これからの中学校生活に対する大きな期待感に満ちあふれていて、大変立派です。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠にありがとうございます。大きく成長されたお子様の姿をご覧になり喜びもひとしおのことと思います。

ここで、新たな生活に向かって羽ばたく卒業生の皆さんに、港区並びに港区教育委員会より、一言お祝いの言葉を贈りたいと思います。

昨年11月、日本人宇宙飛行士、古川聡さんが、約5カ月半の国際宇宙ステーションでの長期滞在ミッションを終え、帰還しました。連続宇宙滞在日数167日は、日本人最長記録となりました。

古川さんは宇宙飛行士であり、医師でもあることを知っている方も多いと思います。医師として医療の現場で治療と研究に取り組んでいたある日、宇宙飛行士を募集しているということを知りました。古川さんにとって子供の頃の夢は、アメリカ合衆国のスペースシャトルの宇宙飛行士になることだったので「これこそ自分がやりたかったことだ。宇宙飛行士として自分ができることがあるはずだ。」と医師としての経験を生かし宇宙飛行士になることを決意しました。

宇宙ステーションでの古川さんの任務は、アメリカ合衆国、ロシア、日本の3カ国が共同で行う実験やシステムに関わる業務を行う他、限られた時間を有効に活用し、近い未来に、私達が宇宙に行くことを想定し、宇宙空間における人体に対する影響について、自分の体を使って様々な実験を行うことでした。無重力の状態での骨密度や筋力の低下について調べたり、無重力空間における心臓への負担について、24時間連続で心電図記録をとり、体内リズムの変化や睡眠中における心臓の休息度等を調べたりしました。

自らの体をもって、実験に臨んだ古川さんは、自分自身の目標を達成しようと努力するとともに、信念をもって、社会のために自らの医師としての力を発揮すべく活動していたことは、いうまでもありません。自分のためだけでなく、人類の未来を見据えて行動できるということのすばらしさを、古川さんから学べるのではないのでしょうか。

卒業生の皆さんは、今、自分のなりたい職業についてや、あるいはこれからの世界の発展のために自己の力を発揮したいなど、いろいろな夢や希望を抱いていることでしょう。古川さんは、地球へ帰還後、私達に向けて「宇宙飛行士に限らず、将来何かになりたいという夢を持ち続け、その夢に向かって努力すれば夢はかないます。」とメッセージを残しています。夢を夢として終わらせることなく、強い意志をもって、目標を達成するために今自分にできる努力を続けてください。辛いときや悩むときもあるでしょうが、きっと実現できる日が来ると信じて、これからの道を進んでいってほしいと思います。

結びになりましたが、〇〇校長先生をはじめ教職員の方々と、本校の教育活動に惜しみないご協力とご理解を賜りましたPTA並びに地域の皆様に心より感謝を申し上げますとともに、〇〇名の卒業生の皆さんのご健康とご活躍を心からお祈りし、お祝いの言葉といたします。

平成24年3月23日

港区長 武井雅昭  
港区教育委員会

以上です。

○小島委員 4行目のところで、「これからの中学校生活に対する大きな期待感に満ちあふれていて」というのは、やはり「期待感」があったほうがいいのですか。「期待感」の「感」がなくてもいいのではという気がします。「期待に満ちあふれて」でいいのではないのでしょうか。

それから、「心臓の休息度等」のところがちょっと読みにくいなと思ったのです。「心臓の休息度など」と言ったほうがいいですね。「等」というと読みづらい。「など」と言ったほうがまだいいかな。また、「宇宙ステーションでの古川さんの任務は、アメリカ合衆国、ロシア、日本……」のところなのですが、アメリカは「アメリカ合衆国」という正式な名前。ロシアはたしか「ロシア連邦」というのが正式な名前。そして日本。ここは、「アメリカ合衆国」というのであれば、ロシアの方もしなければならないし、それを言わないで、単に「アメリカ、ロシア、日本」と言ってもいいのではないかという気がします。

○半田委員長 心臓の休息度等のところが読みにくいので、「休息度など」と言ったほうがいいのかも  
しれませんね。また、「古川さん」が非常に多いので、「古川さんから学べる」の「古川さんから」  
を取ってはいかがですか。

○綱川委員 そのちょっと前のところなのですが、「夢は、アメリカ合衆国のスペースシャトルの  
宇宙飛行士になることであった」と書いてあるのですけれども、多分、宇宙飛行士になることが夢  
であって、「アメリカ合衆国のスペースシャトル」は要らないですよ。

○教育長 これは「アメリカ合衆国」は要らない。

○綱川委員 「スペースシャトル」も要らないのではないかなと。もしかすると、古川さんの子ど  
もの頃は、「スペースシャトル」はありましたか。

○指導室長 80年代ですからスペースシャトルはあったと思います。

○教育長 ですよ。きっと古川さんの小さいころは、スペースシャトルではないですか。アポロ  
ではないですよ。

○綱川委員 宇宙飛行士ではなくてスペースシャトルに乗りたいとかという言い方かもしれない。

○教育長 「アメリカ合衆国の」は確かに要らないですよ。「宇宙飛行士」でもいいのかもしれな  
い。

○綱川委員 小さいころ、「何になりたい？」と聞かれると、「パイロット」とか「宇宙飛行士」と  
か漠然と言っていたと思うのです。スペースシャトルがあったのならいいのですよ。古川さんが何  
歳か知らないのだけれども。

○教育長 42歳ぐらい。

○指導室長 これ、どこかに書いてあるそうです。でも、とっても意味は通じるのではないかと思  
います。

○綱川委員 本人がそう思っていたのならそれでいいです。

○教育長 ただし、古川さんはスペースシャトルで行ったわけではないのです。ソユーズで上がっ  
ていったのです。

○綱川委員 スペースシャトルではなくて、両方ともソユーズですか。

○教育長 古川さんは1回目。今度行くのは、その前に長期滞在した野口さん。今またロシアで訓  
練しているのですよね。

○半田委員長 では、これでよろしいでしょうか。次に中学校をお願いします。

○指導室長 では、中学校の卒業式です。

#### お祝いの言葉

卒業生の皆さん、本日ここに義務教育9年間の全課程を修了され、晴れて卒業のときをむかえ  
られましたことを、心からお慶び申し上げます。

ただいま、皆さんは校長先生から中学校の3年間を修了した証である卒業証書を受け取りまし  
た。皆さんの清々しい表情からは卒業の日を迎えた喜びと、これからの人生に対する大きな期待

感に満ちあふれ、堂々とした姿は頼もしいかぎりです。

保護者の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうございます。立派に成長されたお子様の姿をご覧になり、喜びもひとしおのことと思います。

ここで、新たな進路に向かって羽ばたく卒業生の皆さんに、港区並びに港区教育委員会より、一言はなむけの言葉を贈りたいと思います。

東京の観光名所として知られている東京タワーには、第一次南極観測隊に同行した15頭の樺太犬記念像が設置され、中でも、テレビや映画で取り上げられた兄弟犬タロとジロの物語はよく知られています。この南極観測隊に先駆けて、1912年、日本人初の南極探検の成功から、今年で100年という節目の年を迎えます。

白瀬隊長率いる日本の南極探検隊は、1910年、明治43年11月、欧米諸国と比べ十分な装備も知識もない中で、はるか1万キロメートル離れた南極を目指し、漁船を改良し蒸気エンジンを搭載した木造の開南丸で、南極探検隊の記念碑が近くにある港区の芝浦ふ頭を出港しました。途中、ニュージーランドの沖合いで氷に阻まれ、オーストラリアのシドニー港まで一時退避しました。翌年、明治44年11月、再び南極を目指してシドニー港を出航し、船に近づいてくる大冰山と10メートルを超える大波との恐怖と戦いながら南極海を航海しました。ついに、日本を出航して2年目、1912年、明治45年1月、日本人として初めて南極に到達しました。これは、ノルウェーのアムンゼン、イギリスのスコットと並ぶ快挙でした。

南極探検の過程では、厳しい自然に阻まれ前進することができなかつたり、食料が底を尽き探検を一時中断しなければならないこともありました。それでも、日本の南極探検を可能にしたのは、白瀬隊長をはじめ全乗組員が、日本人としての誇りを胸に、高い理想と大きな夢を抱いて挑戦し続け、常に最善の方法を考え、努力を積み重ねてこられた結果であると思います。

白瀬隊長の著書『私の南極探検記』の中で、「人間は目的に向かってまっすぐに進むべきものである。まして、自分は今、目的の第一歩をやっと踏み出したばかりである。初心を貫くには、人の2倍も3倍も頑張らなければならない」とあります。

どうか、皆さんも、港区立〇〇中学校で学び、育んできた夢や目標に向かって、自分を信じ、努力を重ね、自らの未来を力強く切り拓いていってください。

結びになりましたが、〇〇校長先生をはじめ教職員の方々と、本校の教育活動に惜しみないご協力とご理解を賜りましたPTA並びに地域の皆様に心より感謝を申し上げますとともに、〇〇名の卒業生の皆さんのご健康とご活躍を心からお祈りし、お祝いの言葉といたします。

平成24年3月19日

港区長 武井雅昭  
港区教育委員会

以上です。

○小島委員 小学校と同じ、この「期待感」の「感」をとってもいいのではないのでしょうか。

○教育長 「期待に満ちあふれた」と「た」を入れたほうがいいね。「大きな期待に満ちあふれた堂々とした姿は」と言ったほうがいいですね。

○指導室長 1点だけ修正しました。

前回、「アムンセン」だったのですけれども、調べましたら両方載っていました。新聞等の記事を読むと、やはり「アムンゼン」の方が一般的でしたので、「アムンゼン」の方に改めさせていただきました。

○教育長 「港区の芝浦ふ頭」というところが何となく長い。「港区の」をとってしまうとまずいのですか。芝浦ふ頭が港区だと思わないなどということは本当はないはずなのだけれども。「港区の」とわざわざ入れなくてもいいのではありませんか。

○綱川委員 品川区に芝浦ふ頭というのはあるのですか。

○教育長 ないです。芝浦は港区。だから、「港区の」とわざわざ入れなくてもいいのではないですか。それだったら、「港区芝浦ふ頭を」と言ったほうが読みやすいかもしれない。

○生涯学習推進課長 中段ぐらいで、「ノルウェーのアムンゼン、イギリスのスコットと並ぶ快挙」の前の「日本人として初めて南極」と言うと、極点のことを言うようなイメージがあるので、「大陸」ではないかと思うのです。ちょっとよく分からないのですけれども。

○小島委員 確かに極点までは行っていないのでしたね。

○教育長 「大陸」にしましょう。

○綱川委員 西暦と年号。まず最初のところに出てくるのは、「1912年、日本人初の南極探検の成功」と書いてあって、その次からずっと、西暦が書いてあって明治があるのですね。多分、西暦の方が何百年前とかすぐ分かるのですけれども、統一して、最初に明治を入れたほうがいいのか、それともどっちかにしたほうがいいのか、ちょっと検討してみてください。

あと、これは言葉の問題なのですけれども、「蒸気エンジン」という言葉を言うのか。「蒸気機関」というふうに私は覚えていたと思うのですが、その辺、どっちが正しいのでしょうか。「エンジン」でもいいのですか。

○澤委員 そうではないかと思えますけれどもね。

○教育長 エンジンというものそのものというのは、動力ということなのでしょうね。

○澤委員 「蒸気機関」というのは聞いたらすぐに分かるということですね。

○教育長 昔のあれは「蒸気機関」です。

○綱川委員 蒸気で起こしているのはエンジンというイメージがないのです。動力というようなイメージがないのです。

○小島委員 「蒸気機関を搭載した」というのでは文章にならないですね。だから、「エンジン」を「機関」に単純には変えられない。

○澤委員 我々は、「機関」の方がおなじみだけれども、子どもたちは、「機関」を何と言うかなと。

○教育長 これは、ものの本には「蒸気エンジン」になっていたのですね。

○澤委員 これが間違いでなければ「エンジン」でいいと思います。

○指導室長 先ほどおっしゃった元号が繰り返してうるさいですね。1910年、明治43年、同じ年号を繰り返している。

○教育長 最初と最後ぐらい入れて、真ん中は元号だけ、あるいは西暦だけにしてしまうとか、そういう手もあります。1912年というのは一体どういう時代だったのかというのがなかなか分からないから、最初のところは1912年、明治45年と一緒に入れたほうがいいかもしれません。

○綱川委員 そうすると、明治時代の終わりごろだというイメージができるわけですね。

○半田委員長 指導室長、今までの意見を踏まえ作成していただきますようお願いいたします。

## 11 平成24年度入学式「お祝いの言葉」について

○半田委員長 続きまして、平成24年度幼稚園入園式のお祝いの言葉をお願いします。

○指導室長 平成24年度幼稚園入園式。

### お祝いの言葉

ご入園、おめでとうございます。

皆さんは、今日から〇〇幼稚園の子どもたちです。

幼稚園には、園長先生をはじめ、優しい先生方や元気いっぱいのお兄さん、お姉さんたちがいます。先生方やお兄さん、お姉さんも、皆さんと一緒に遊べることをとても楽しみにしています。幼稚園では、毎日お友達と遊んだり、体を思い切り動かしたり、歌を歌ったり、楽しいことがたくさんあります。また、先生が本を読んでくださいます。明日から元気いっぱいの笑顔で、幼稚園に通ってください。

ここで、皆さんにひとつお願いがあります。朝、幼稚園にきたら先生に「おはようございます」、お友達に「おはよう」と元気な声であいさつをしましょう。あいさつをすると、みんな気持ちよくなり、一日がとても楽しくなりますよ。

さて、保護者の皆様、お子様のご入園、誠におめでとうございます。心からお祝い申し上げます。

子どもたちの健やかな成長のためには、家庭と地域、幼稚園とが十分に連携することが大切です。子どもたち1人ひとりが、たくましく心豊かに成長できますよう、幼稚園の教育活動についてご理解、ご協力の程、よろしく願いいたします。

また、〇〇園長先生をはじめ教職員の皆様、そして、PTA、地域の皆様、本園の園児1人ひとりに温かいご指導とご支援をよろしく願いいたします。

結びに、入園児の健やかな成長を心から願いますとともに、ご出席の皆様方のご健勝とご多幸を祈念し、お祝いの言葉といたします。

平成24年4月10日

港区長 武井雅昭  
港区教育委員会



以上です。

○小島委員 これは、3歳の入園児も4歳の入園児も同じですね。

○指導室長 同じです。

○澤委員 状況を見てアレンジしてよろしいですね。子どもたちが騒いでいる中、一人読んでいるわけにいかない。

○指導室長 それでは、小学校の入学式。

#### お祝いの言葉

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

きょうから皆さんは、港区立〇〇小学校の1年生です。

皆さんは、今日の入学式を楽しみにしていたことでしょうか。これから始まる小学校の生活にどきどきしたり、わくわくしたりしていることと思います。これから、この〇〇小学校で、楽しく過ごすために、大切なことを、三つお話しします。

一つ目は、お友達と仲良くすることです。学校では、たくさんのお友達と一緒に過ごします。友達と仲良く生活するためには、自分から「おはよう」「ありがとう」「さようなら」など大きな声であいさつをすることがとても大切です。

二つ目は、明るく元気に生活することです。早寝早起きをして、朝ご飯をしっかり食べて、元気に学校に来てください。そして、学校で、おいしい給食を食べて、お友達と一緒にたくさん体を動かしましょう。そうすれば、心も体も丈夫になって、何でも頑張ろうという力がわいてきます。

三つ目は、自分から進んで勉強することです。国語、算数、体育や図工などの他、港区では英語の授業もあり、先生方がいろいろなことを教えてください。先生のお話をしっかり聞いて、自分でよく考えて、たくさんのことを学んでください。

今、大切なことを三つお話ししました。「お友達と仲良くすること」「明るく元気に生活すること」「自分から進んで勉強すること」です。皆さんには、学校で楽しく過ごして、「学校が大好き」と言えるようになってほしいと願っています。

さて、保護者の皆様、お子様がめでたくご入学の日を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。子どもたちの健やかな成長を支えるためには、家庭・地域・学校がそれぞれの役割を十分に果たし、連携することが大切です。これからの六年間、今後とも、本校の教育活動へのご理解とご協力を、お願いいたします。

〇〇校長先生をはじめ教職員の皆様、PTA、地域の皆様、本校の児童1人ひとりに温かいご指導とご支援をよろしくお願いいたします。

結びに、これから始まる小学校生活に、夢と希望を大きくふくらませている新1年生のたくましい成長と、ご出席の皆様のご健勝とご多幸を祈念し、お祝いの言葉といたします。

平成24年4月6日

港区長 武井 雅 昭  
港区教育委員会

以上です。

○半田委員長 いかがでしょうか。

○小島委員 非常に良くできていると私は思います。

○教育長 「これから、この」の「この」は要らないのではないかと。「小学校で」と一般的でいいのではないですか。最初に「港区立筭小学校1年生」などと言って、またここで「筭小学校で」などと言わなくても、「港区立御成門小学校の1年生です。……わくわくしたりしていることと思います。小学校で楽しく過ごすために、大切なことを三つ、お話しします。」と。この「〇〇小学校」という固有名詞は要らないと思います。

それから、「そうすれば、心も体も丈夫になって」の「そうすれば」も必要ないと思います。「学校で、おいしい給食を食べて、お友達と一緒にたくさん体を動かしましょう。心も体も丈夫になって、何でも頑張ろうという力がわいてきます」と言えばいいのではないですか。「そうすれば」と言うと、そうしないとならないのかと。「そうすれば」はなじまないような気がするのです。

○小島委員 1年生だから。なるほど、考えれば、そういう問題が出てくるのですね。

○半田委員長 よろしいですか。では、次に、中学校の入学式をお願いします。

○指導室長 それでは、中学校の入学式です。

#### お祝いの言葉

港区立〇〇中学校の 신입生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

今、皆さんの心の中は、今日から始まる中学校生活への希望と期待で満ちあふれていることと思います。

中学校生活では、小学校で培ってきたことをさらに発展させ、自ら考え、主体的に判断し、行動することが一層求められてきます。これからは、中学生になったという自覚をもち、3年間の学校生活を、意義のある充実したものにするために、次の二つのことを心がけてほしいと思います。

第一は、「どんなことも積極的に学び、自分のよさを伸ばす」ということです。

中学校では、教科の学習はもちろんのこと、学校行事や生徒会活動、部活動など、様々な活動があります。これから始まる中学校生活の中で、新しいことを積極的に学び、その活動を通して自分自身を磨き、自分のよさを伸ばしてください。高い志のもと、将来に向けた明確な目標を掲げ、その目標を達成するために、主体的に努力する人になってほしいと思います。

第二は、「思いやりや感謝する気持ちを持ち、周囲の人を大切にする」ということです。

人間は、お互いを理解し、よさを認め合い、高め合うことで豊かな生活を営んでいます。皆さん

んには、心も体も大きく成長するこの時期に、友情をはぐくみ、友達との絆を一層深めていくことが大切です。もし、支えや助けを必要としている人がいたら、その思いや悩みをしっかりと受け止め、勇気と希望を伝えられる思いやりのある人に成長してください。また、多くの人々の善意や支えにより現在の自分があることに感謝し、周囲の人を大切にできる人になってほしいと思います。

さて、保護者の皆様、お子様がめでたくご入学の日を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。子どもたちの健やかな成長を支えるためには、家庭・地域・学校がそれぞれの役割を十分に果たし、連携することが大切です。これからの本校の教育活動へのご理解とご協力を、お願いいたします。

〇〇校長先生をはじめ教職員の皆様、PTA、地域の皆様、本校の生徒1人ひとりに温かいご指導とご支援をよろしくお願いいたします。

結びに、これから始まる中学校生活に、夢と希望を大きくふくらませている新1年生のたくましい成長と、ご出席の皆様のご健勝とご多幸を祈念し、お祝いの言葉といたします。

平成24年4月9日

港区長 武井雅昭  
港区教育委員会

以上でございます。

○半田委員長 いかがでしょうか。

○綱川委員 「中学校生活」というのが4カ所あるのですね。これがちょっと簡単にできないかなというのと、あと、「第一」と書いてあるところの3行目の「これから始まる中学校生活」というのと、最後から3行目に「これから始まる中学校生活」と同じ言葉が二つあるのですけれども、後ろの方は「結びに」で、「これから始まる」というのは要らないのかなと思いました。

○教育長 同感ですね。ここを少し変えたほうがいいですね。ここはちょっと変えましょう。

小学校のお祝いの言葉に比べて少しあっさりしている感じがしませんか。このとおりのだけでも、中学生の葛藤みたいな、ぶつかり合うこともあり、そこを解決していくことに意味があるのだというような、そんなようなものがちょっと欲しいかなと感じます。

それから、この3年間は義務教育最後の3年間なのだとすることを少し強調できるといいかな。この3年間が終わったら、後は義務教育でなくなってしまう。だから、この義務教育の3年間で大事にしてほしいのですね。そんなことを少し入れたいですね。

「また、どんなことにも積極的に学び、自分のよさを伸ばす」とあるけれども、「積極的に学び、自分のよさを伸ばす」でいいのではないですか。

○半田委員長 入園式、入学式お祝いの言葉は、次回また改めてご報告を受けたいと思いますので、よろしく申し上げます。

「閉 会」

○半田委員長 それでは、本日予定している案件はすべて終了しましたが、庶務課長、そのほか何かございますでしょうか。

○庶務課長 特にございません。

○半田委員長 なければ、これをもちまして閉会いたします。

次回は2月28日火曜日、午前10時からの予定です。

本日は、この後、午後4時から港区教育委員会表彰の表彰式がございますので、皆様ご出席をよろしくお願いいたします。お疲れ様でした。

(午後3時48分)

会議録署名人

港区教育委員会委員長 半 田 吉 恵

港区教育委員会委員 澤 孝 一 郎